

M臨31-1

2025年度 大学院入学試験問題【Ⅰ期】
文学研究科 臨床人間学専攻（現代社会学専修）博士前期課程

科目：論文・専門科目（辞書使用＝不可。ただし外国人留学生入学試験受験者のみ可）

問題用紙は2枚あります。

答えは【Ⅰ】【Ⅱ】それぞれ解答用紙を1枚ずつ使い、問題番号を記してから書きなさい。解答用紙は裏面まで使って構いません。

【Ⅰ】次の問いすべてに答えなさい。

（1）質的調査法にはどのような種類があるか。代表的な方法の名称を4つあげて、それぞれの簡単な説明をしなさい。

（2）社会学的分析において注目すべき、個人の「社会的属性」を5つ以上あげなさい。

（3）社会調査をおこなう場合、研究倫理上留意しなければならないのは、どのような点か。項目に分けて述べなさい。

（4）後期近代、第二のモダニティなどと呼ばれる現代社会において、「自己」のあり方は、それ以前の社会と異なる、どのような性格をもつようになったか。再帰的プロジェクトという言葉を使って述べなさい。

（5）次の用語から2つを選び、具体的な事象を挙げて説明しなさい。

ラベリング論 文化的再生産 インターセクショナリティ 同化政策 社会関係資本
持続可能な発展

2025年度 大学院入学試験問題【I期】

文学研究科 臨床人間学専攻（現代社会学専修）博士前期課程

科目：論文・専門科目（辞書使用＝不可。ただし外国人留学生入学試験受験者のみ可）

〔Ⅱ〕次のグラフは、日本の「青少年の性行動全国調査」の第6回から第8回にわたる調査での、高校生と大学生の交際状況の結果を示したものである。このグラフを注意深く見て、この調査の結果について、以下のすべての問いに答えなさい。

この問題は、著作権の関係で掲載ができません。

出典：林雄亮ほか『若者の性の現在地』勁草書房、2022年、11頁

注意：第6回調査では、調査時点での交際相手の有無しか調べなかったが、第7回と第8回では、それに加えて、調査時点までに一度も交際経験がないという状況を把握した。

（1）いつからいつの間に、どの学校段階のどの性別の人たちの間で、交際相手ありの人が増えたのか、減ったのか、交際経験なしの人はどのように推移したのかなどを、言葉で整理して述べよ。

（2）この調査結果から、次のことが言えるなら○、言えないなら×を答えなさい。またそう考える理由を簡単に書きなさい。

- ① 交際経験ありの人は時代により増えたり減ったりを繰り返しているもので、2017年の次にはまた増加する。
- ② 交際経験なしの人は、学生時代には単に遅れているだけであるので、徐々に交際の開始が遅い時期になってきていることがわかる。
- ③ 高校生で交際相手なしの人は第7回でも第8回でも、男子の割合が女子の割合よりも多いが、これは高校生女子が、高校生男子ではなく、大学生男子や高卒の男子と交際しているからである。

以上